

松江市立島根小学校 2年実践

実践者 大谷 茂寿
報告者 大野 瑞己

1 単元名 コロコロテニピン！

2 単元の目標

- 基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、テニピンにつながる易しいゲームをすることができる。 【知識及び技能】
- 打ち方や打つタイミング、打ちやすい立ち位置など自分たちでコツを考え、友達に伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- 進んで練習やゲームに取り組み、活動の中で気付いたことを友達に伝えようとしている。 【学びに向かう力，人間性等】

3 基盤 省略

4 単元計画（全6時間）

時	1	2	3・4	5・6
めあて	学習の進め方を知り、見通しをもとう。	ラケットとボールになれよう。	コロコロラリーをつなげるコツを考えよう。 (腕の振り方、タイミング、当てるポイント、打ちやすい立ち位置)	コツをいかしてコロコロテニピンをしよう。
学習活動	○オリエンテーション ・テニピンを知る。 ・学習の流れを知る。 ○ラケットでボールを打つ。	○スキルアップタイム ・投げ上げキャッチ ・ボールつき（手） ・バランス ・ボール打ち上げ ・ボールつき（ラケット）	○スキルアップタイム ～追加～ ・コロコロパス（円になって） ○コロコロラリーゲーム（1対1） ・打つコツを見つける ・コツを伝え合う	○スキルアップタイム ○コロコロテニピン（2対2）

5 授業の実際

【視点1】

なりたい姿をイメージし、自他の課題や変容の自覚を促す「単元構成と授業構成」の追求

○単元のはじめは個の技能が高められるようにシングルスでのラリーゲームを行った。単元の終わりはダブルスでの得点形式のゲームに切り替え、学びを生かせる単元構成にした。

【視点2】

なりたい姿に向かう「基礎感覚や基礎技能を高めていくための手立て」の追求

○2時間目以降はスキルアップタイムの時間をとり、主運動につながる技能を高めた。内容は、「投げ上げキャッチ」、「ボールつき(手)」、「バランス(止まって、動きながら)」、「ボール打ち」、「ボールつき(ラケット)」、「コロコロパス(円になって)」である。自身の最高回数(秒数)を毎回超えるように意識させることで、記録を超えられた達成感を得られるとともに、自身の技能の高まりを感じられていた。

○低学年での実践ということで、本単元ではラケットでボールを転がしてゲームを行うところまでを行い、打ちやすい位置に移動する、来たボールにタイミングを合わせてラケットを当てる、転がしたい方向にボールを打ち返すなど、視点をしぼり発達段階に合わせて段階的に技能を身につけられるようにした。

【視点3】

なりたい姿に近づくための「主体的・対話的で深い学び」の追求

○より上手にボールを操作するためにどうすればいいのか、腕のふりかたや当てるタイミング、当てるポイント、立ち位置などの視点を段階的に与え、ペアで動きを見合い、うまくいったプレーの中から「コツ」を見つけ、互いに伝え合ったり、全体で共有したりした。

6 成果と課題

- スキルアップタイムを毎時間行うことで、技能面の高まりを子ども自身が感じることができていた。
- 上手にボールを打ち返すコツをペアで見つけ、全体で話し合うことで良い動きの意識付けができた。
- 今回の単元では、浮き球ではなく転がしてゲームを行うことで、運動に苦手意識をもつ子どもにとっても安心して取り組むことができていたように思う。
- コートはバドミントンの区画で、ネットを設けずにコートの両端の辺をゴールにした。ネットを設けないことが子どもたちの取り組みやすさにつながっていたと感じる。
- シングルスからダブルスに移行した際に、ボールを見合ってしまったたり、ぶつかってしまったりと連携がうまくいかない場面が見られた。個のスキルアップだけでなく、連携面でのスキルも身につけられる時間が取ればよかった。
- 子どもたちどうしでコツを見つけ伝え合う時間を取ったが、与えた視点をもとに伝えることができていたペアもあったが、低学年ということもあり、うまく言語化できずに効果的に関わるることができていない児童がいた。
- スキルアップタイムを経て技能差が開き、一方的な試合になりゲームが成り立たなくなってしまうことがあった。子どもたちがルールを工夫して改善しようとしていたのは良かったが、ゲーム形式や対戦方式をさらに工夫する必要があると感じた。